

令和2年度小学校動物飼育推進校 実践事例

— 生命の尊さを実感させる継続的な動物飼育 —



令和2・3年度 小学校動物飼育推進校

- 新宿区立東戸山小学校
- 世田谷区立太子堂小学校
- 中野区立白桜小学校
- 青梅市立第七小学校
- 青梅市立新町小学校

○令和2年度の実践事例

- ・衛生管理に係る実践事例
- ・体験活動に係る実践事例
- ・研修会に係る実践事例
- ・埋葬に係る実践事例

各実践事例等については、東京都教育委員会ホームページに掲載しています。

<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/animal.html>



令和3年4月

東京都教育委員会

衛生管理に係る実践事例



推進校では、飼育動物の衛生管理を適正に行っていくに当たって、学校担当獣医師から飼育動物の健康診断や飼育環境についての指導・助言等の支援を受けています。



新宿区立東戸山小学校

【実践の概要】

○ 本校では、飼育環境委員会を中心にヤギの飼育を行い、生活科の中で第1、2学年の児童がヤギと継続的に触れ合う活動を行っています。これまでに助言していただいたことに加え、新たに気付いたことについても、学校担当獣医師に確認をしながら、飼育動物の環境をより良くするために改善に取り組んでいます。

特に、ヤギの様子に不安があったときには、獣医師に健康診断をしていただいたり、餌の量や観察のポイントを指導していただいたりすることができました。



飼育のポイントについての指導



【学校担当獣医師や保護者等との連携】

○ 本校では、各学期1回程度実施しました。ヤギの適切な餌の量や体調を観察する際のポイントについて助言いただきました。ヤギは体調を崩すことがありましたが、その際は、飼育小屋の改善や治療方法について指導を受けました。

また、感染症対策により、ヤギの飼育活動に協力いただいているヤギボランティアの方々と、日頃の飼育活動について意見交換する場を設けることが難しかったので、学校を通じてボランティアの方からの質問を学校担当獣医師に伝えるなどして連携をとりました。

【児童の反応】

○ 適切な餌や水の量、糞ふんや尿の処理の仕方、ヤギの健康状態の観察の仕方など、衛生管理について指導・助言をいただくことで、児童がより良い飼育活動を心掛けるようになり、詳しく観察して、ヤギの様子や変化に気付くようになりました。

○ ヤギの様子や飼育について児童自ら、気付きや疑問をもつことができ、学校担当獣医師に質問することができました。より良い飼育について詳しく知ることで、児童が自信をもって、主体的に飼育活動に取り組むことができました。



世田谷区立太子堂小学校

【実践の概要】

- 学校担当獣医師からウサギの飼育方法を、第5、6学年の飼育委員会の児童に指導・助言していただきました。

児童が触れようとするすると暴れていたウサギですが、今ではすっかり大人しくなり、児童が安心して触れられるようになりました。そのため、飼育委員会を中心としたウサギとの触れ合い活動を実施しています。



ウサギとの触れ合い活動

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会活動時、ゲストティーチャーとして学校担当獣医師に来ていただき、暑さ寒さへの対策や、ウサギの習性、食事の量など、健康維持に関わる大切な事柄を教わりました。
また、実際に飼育小屋の環境についてもウサギが落ち着けるような場所を設置するなどのアドバイスをいただき、改善しました。
- 姿勢を低くしながらゆっくりした動作で接することで、人との関係が改善し、ウサギの行動に変化が見られるようになりました。

【児童の反応】

- 飼育委員会の児童は、安全面やウサギのストレスを考えながら飼育活動ができるようになりました。
- 飼育委員会の児童は、低学年の児童やウサギとの触れ合いに慣れていない児童に対し、姿勢を低くしたり優しく触ったりと、接し方のコツを伝えることができるようになり、自信をもって活動しています。
- 休み時間、全校児童にウサギと触れ合える機会を設けることができるようになり、以前よりも全校児童の飼育に関する意識が高まってきています。



中野区立白桜小学校

【実践の概要】

- 第5学年、第6学年の飼育委員会の児童が、モルモットやチャボが快適に過ごせるように、小屋の掃除、餌やりを毎日行っています。鯉への餌やりもかさず行っています。
- 低学年、高学年の児童が学校担当獣医師から、モルモットやチャボの飼育環境や衛生指導、モルモットやチャボが安心できる抱き方などの話を伺いました。
- 学校担当獣医師から教えていただいたことを基に、飼育委員会の児童がモルモットやチャボの餌や飼育状況について、委員会紹介集会の中で発表しました。
- 第2学年の児童は、毎日観察日誌をつけています。餌の量や生活の様子、気付いたことをまとめています。



飼育委員会の児童による小屋の清掃

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校獣医師に来ていただいて、適切なすみかになるように床材として新聞紙、乾草、木材チップなどを敷くこと、温度を 18~24℃、湿度を 40~70%に保つことを助言いただきました。また餌はモルモット専用ペレット、野菜、果物、乾草、野草等を与え、特にビタミンCの含有量が多い野菜等を意図的に多給する必要性を助言いただきました。

【児童の反応】

- 助言していただいたことを基に、給餌を実践し、適切に飼育をしようという高い意識をもっています。
- 掃除の時には、汚れたわらの始末をきれいに行い、モルモットが過ごしやすいようにわらの量を考えて補充しています。
- 冬には、寒さ対策として透明のケージを使い、新聞紙を使って暖をとれるように調整しました。



青梅市立第七小学校

【実践の概要】

- ウサギの健康を維持する方法などを御指導いただきました。
- ウサギにとって最適な小屋の状態、適切な餌の種類について御指導いただきました。



ウサギの爪の切り方の指導

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

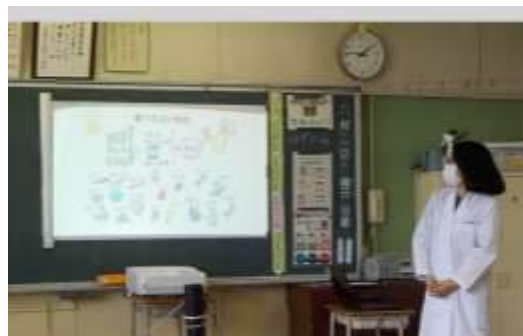
- 年度当初、ウサギの飼育状況把握のための場を設け、オスとメスを小屋ごとにきちんと分けて飼育することや、性別判定を速やかに行い、判別できるまでは、ゲージ内に個別に管理することなどのアドバイスをいただきました。
また、教員がウサギの爪を切ることは今までなかったので、実際にどのようにして切ったらよいのかを御相談させていただき、指導してくださいました。
- ウサギは仰向けの姿勢になることが野生ではありえないが故に、膝の上で仰向けにすることにより、ウサギは動かなくなるということを教えていただきました。この方法で爪を切ると、ウサギにケガをさせてしまうなどの心配がないことを学びました。



青梅市立新町小学校

【実践の概要】

- 第5学年、第6学年の飼育委員会の児童が、ウサギが快適に過ごせるように、毎日餌やりと小屋の掃除をしています。
- 飼育委員会では、当番を決め、中休みと昼休みに、ウサギの世話をしたり、ウサギを小屋の外に出して遊ばせたりするとともに、ウサギの様子を飼育日誌に記録しています。



ウサギが食べていいもの、
食べてはいけないものの説明

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会では、学校担当獣医師に来ていただき、ウサギの生態や飼育を行う上で大切なことについてお話を伺いました。
- 飼育委員会の児童と学校担当獣医師と一緒にウサギ小屋に行き、毎日の世話で分からない点を質問したり、世話の仕方を教えてもらったりしました。
- 教員を対象に、ウサギの飼育の仕方、暑い時期や寒い時期、大雨が降った時に飼育小屋に必要な物について指導してもらいました。

【児童の反応】

- 飼育委員会の児童は、学校担当獣医師からウサギについて教えてもらったことにより、正しい可愛がり方を知り、自分たちだけでなく低学年の児童にも声をかけながら、楽しんでウサギとの触れ合いを行っています。
- ウサギの世話の仕方や飼育小屋の管理の仕方を教えてもらったことにより、飼育小屋の掃除をより入念に取り組む児童が増えました。
- 教員が衛生管理について研修を行ったことで、飼育環境を整えることができました。

体験活動に係る実践事例



推進校は、生活科における継続的な動物飼育に係る指導方法を開発する等、生命の尊さを理解させ、動物愛護の心を培う体験活動に取り組んでいます。体験活動の実施に当たっては、学校担当獣医師から支援を受けています。



新宿区立東戸山小学校

【実践の概要】

- ヤギとの関わりをもつ中で児童が感じた疑問や思ったことを学校担当獣医師に尋ねたり、伝えたりする活動に取り組みました。

また、教員と児童が共に世話や触れ合い活動をする中で、ヤギも児童も安心して触れ合える方法について教えていただいたり、獣医師の仕事、ヤギ以外の動物についての話もしていただいたりすることで、生命の尊さや動物愛護についての理解が深まりました。



低学年の飼育動物との触れ合い



ヤギの飼育について委員会での話し合い

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 事前に担当教員と学校担当獣医師とで打ち合わせを行いました。その際に、児童の疑問や飼育活動を行う中で不安なことを事前に伝えておくことで、児童に適切な言葉掛けをすることができました。

【児童の反応】

- 第1、2学年とも動物が苦手な児童がいますが、学校担当獣医師を通じた触れ合い体験を行うことで怖がらずに接することができるようになってきました。
- 学校担当獣医師との触れ合い体験の学習を通し、動物をよく観察することで気持ちが分かるようになることを学びました。また、動物と仲良くなるには、動物の気持ちを考えてお世話することが大切であることを学び、生命を大切にすることの重要性に気付くことができました。
- 学校担当獣医師から「お別れが近いかもしれない」と専門的な見地からヤギの体調について診断していただき、ヤギの最期に当たっては、寝床や給餌、給水、体温の保持について助言をいただきました。専門家である獣医師に来校してもらい、ヤギの様子を確認していただいたことも心強かったです。



世田谷区立太子堂小学校

【実践の概要】

- 学校担当獣医師から第1、2学年を中心に、ウサギの飼育や他の動物への関心が高まるよう指導や助言をしていただきました。
- オンライン授業でウサギ等の動物の画像や動画、院内にある資料等を使用していただき、具体的に視覚的にも分かりやすく学習を進めることができました。



オンラインによる獣医師との連携授業

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師からウサギの生態や習性など、オンライン授業を通して、図解や動画を活用しながら詳しく教えていただきました。
- 各クラス、別々の獣医師によるオンライン授業だったので、ウサギ以外にも、イヌやハムスター、小鳥といった、獣医師のそれぞれの専門分野を生かした授業がとても興味深いものでした。
- 生活科と国語科を横断した学習内容であり、児童の興味関心を幅広く網羅した内容であったことから、児童の学びは深いものになりました。

【児童の反応】

- ウサギの観察を兼ねて、触れ合い体験をしました。ウサギを怖がらせないように気を付けたり優しく触れようとしていたりする姿が見られ、学んだことをすぐに実践に生かし、命の大切さについて理解を深めました。
- 児童は動物に対して興味や親しみをもつようになり、その後の学習では自主的に動物について調べたりまとめたりする姿が見られました。



中野区立白桜小学校

【実践の概要】

- 第2学年は7月下旬から、毎日飼育小屋から教室にモルモットを連れて行き、教室でお世話をを行います。2月下旬から、第1学年に引き継ぎます。
- 第5学年、第6学年が学校担当獣医師から、モルモットやチャボの生態や特徴、飼育環境や衛生指導、モルモットやチャボが安心できる抱き方などの話を伺いました。
- 学校担当獣医師が持参した心音機を使って、モルモットの心臓の音を聞きました。



はじめはうまく抱えることができませんでした！

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 生活科の学習において、学校担当獣医師より適切なすみかや、餌について助言をいただきました。
- 学校担当獣医師の御指導のもと、実際に児童一人一人がモルモットを抱っこし、体験的に学ぶことができました。
- 動物アレルギーのある児童については、遠くから動物を観察したり、ICTを活用して映像を見せたりと、授業の参加形態を工夫しました。



モルモットの抱き方の指導

【児童の反応】

- 毎日観察日誌をつけ、モルモットの体調や様子に気を付けながらお世話をすることができました。
- モルモットの適切な抱っこの仕方を知り、怖がらずにモルモットを抱っこできる児童が増えました。
- 毎日お世話をしていく上で、モルモットの気持ちを考えて行動できるようになりました。



青梅市立第七小学校

【実践の概要】

- ウサギの心音と自分の心音を聴き比べることで、「命」を感じる授業を実践していただきました。



ウサギの心音を聴診器で聴く児童

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学級担任が指導案を作成し、推進事業担当教員と管理職、学校担当獣医師で指導案検討を実施しました。
- 授業を実施するに当たって、学級に動物アレルギーの児童の有無を確認したり、授業後に皮膚などに異常が無いかの確認をしたりするなど、家庭との連携を図りました。

【児童の反応】

- 初めて聴く、自分の心臓の音、動物の心臓の音に感動していました。ウサギの心音を聴くことで、ウサギが活着ていることを実感することができる貴重な体験をしました。また、獣医師が実際に使用している聴診器に触れることができ満足感も味わうことができました。
- 国語科の「動物園の獣医」の学習とも繋がる内容となりました。



青梅市立新町小学校

【実践の概要】

- 第1学年、第2学年の生活科の授業で生き物について学習し「生命あるものを大切にする」気持ちを育てました。
- 学校で飼育しているウサギについて学校担当獣医師に教えてもらい、親しみをもって接することができるようになりました。



初めてウサギを抱っこしたよ

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師をゲストティーチャーに迎え、疑問に思ったことを質問したり、ウサギについて説明してもらったりしました。
- 学校担当獣医師のアドバイスを受けて、一人ずつウサギを抱きました。
- 学校担当獣医師に心音機を持ってきていただき、人間とウサギの心音を聞かせてもらいました。

【児童の反応】

- 学校で飼育しているウサギに関心をもち、優しくしようとする気持ちをもつことができました。
- ウサギの好きな食べ物や食べさせてはいけないものを知ること、餌をやってみたいなどウサギと直接関わりたいという思いをもちました。
- 人間とウサギの心音を聞かせてもらい、生き物の命を実感することができました。
- 学校担当獣医師の実演を見て、ウサギの正しい抱き方を知ること、怖がらずにウサギを抱ける児童が増えました。

研修会に係る実践事例



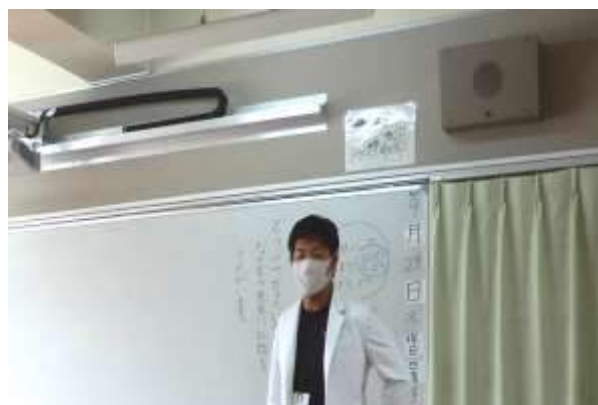
推進校は、動物の適正な飼育や動物愛護の心を培う体験活動の実施に向け、研修会を行っています。その際、学校担当獣医師から、動物飼育に関わる専門的な内容について指導を受けています。



新宿区立東戸山小学校

【実践の概要】

- 本校では、低学年の教員を中心に日頃の飼育活動から気付いたことや疑問に思ったことを、学校担当獣医師が授業の打ち合わせや授業などで来校した際に意見交換を行い、飼育する上での留意点や飼育環境等について助言していただきました。また、獣医師の立場から児童に留意してほしいことやヤギの特徴から飼育の仕方についての指導を受けました。



教職員に向けた研修

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 事前に担当教員と学校担当獣医師との間で打ち合わせを行い、飼育をする上での留意点や飼育環境等について、より良い飼育が行えるように指導を受けました。

また、例年は飼育に携わる教職員や地域・保護者・ボランティアを中心に獣医師との研修を行っていましたが、今年度は、加えて全教職員を対象に学校担当獣医師との研修会を行い、学校での飼育活動が、持続可能でより良いものになるよう意見交換し、助言を受けました。

【教員の反応】

- 動物飼育活動の経験がある教職員でも、ヤギの飼育については不安を感じることもありましたが、学校担当獣医師に確認することで安心して飼育活動に臨むことや児童への指導をすることができました。
- 担当の教職員だけでなく他の教職員にとっても、動物飼育の留意点等について知る機会を設けることができ良かったです。
- 飼育に携わる教職員や地域・保護者・ボランティアを対象に学校担当獣医師との研修会を行ったことで、飼育方法に関して不安なことについて助言を受けられ、また今後のより良い飼育活動のあり方についても意見を交換することができました。



中野区立白桜小学校

【実践の概要】

- 学校担当獣医師をお招きし、教員を対象に、モルモット、チャボの飼育を中心とした学校における動物の飼育についての意義と方法を学ぶ研修会を実施しました。
- 動物が持つウイルスや感染症などの対策について、学校担当獣医師から専門的なお話を伺いました。
- 適した飼育の仕方や、動物の調子が悪くなった場合の対処の仕方などについて、写真を交えながら詳しく説明していただきました。



チャボの爪切りの仕方の指導



教員がモルモットと関わる体験

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 事前に教員から学校担当獣医師への質問を出し、それに回答していただくとともに、チャボの爪切りの仕方やモルモットの抱き方など、実際に飼育している動物と触れ合いながら、助言をいただきました。
- 教員から出た疑問に回答していただいたことで、今後の動物との関わり方や、飼育環境について具体的な改善策や方法を知ることができました。

【教員の反応】

- 学校担当獣医師から指導を受け、学校での適切な飼育活動の重要性を理解できました。
- 担当の教員だけでなく、学校全体の教員が動物飼育について知る機会を設けることができたので、共通理解ができました。また、学校担当獣医師との連携を図ることで、学校現場にあった具体的な対応を知ることができ良かったです。
- 動物を飼育する中で、気を付けるべきポイントが具体的に理解できました。
- 動物飼育に対しての不安が解消されました。



青梅市立第七小学校

【実践の概要】

- ウサギ小屋の広さと、それに伴う適正な飼育数、また、寒い冬のウサギの管理方法などについて、御指導いただきました。



寒さや暑さに備えて、土を掘りやすくした。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 適切な飼育頭数や小屋の状態について、学校担当獣医師に御指導いただきました。また、改善された状況を確認していただき、維持のためのアドバイスをいただきました。

【教員の反応】

- ウサギ小屋の広さと適正飼育数についての話を伺い、それに伴って、将来的には、ウサギの不妊手術を検討する必要があるということ学びました。
また、寒い冬のウサギの管理方法について、特に生後7か月程度のウサギは、屋外ではなく、校舎内にて、かつゲージのまわりを布などで覆うなどの対策を施して管理するとよいというアドバイスをいただきました。早速、教わったことを実践し、2月現在、無事に、かつ順調にウサギが育っています。



青梅市立新町小学校

【実践の概要】

- 8月と12月に学校担当獣医師を講師とし、教職員向けの研修会を行いました。
 - ・8月 飼育小屋の環境、エサについて等
(管理職、飼育委員会担当教員、生活科担当教員を対象)
 - ・12月 ウサギの飼育について
小学校での動物飼育について
(全教員対象)



ウサギの体重測定

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- ウサギの生態や飼育、小学校における動物飼育の教育的価値について、教員に向けて講演をしてもらいました。
- ウサギの飼育環境を学校担当獣医師に見ていただき、小屋の状態、エサの種類、エサの分量は体重に合わせることを、野外の飼育に必要な物について教わりました。
- ウサギの体重測定を行い、学校担当獣医師からそれぞれのウサギに合ったエサの分量の指導を受け、世話をしています。
- 週末の飼育、暑い時期や寒い時期の飼育小屋に必要なだと思えるものをリストアップし、学校担当獣医師に確認してもらい、給水機、飼育小屋の中に置く個室、すのこなどを購入、設置しました。

【教員の反応】

- 動物飼育の教育的価値を知ることができ、飼育小屋の管理の仕方やウサギの健康管理の知識を得ることができました。
- 研修会を行ったことで、教員がウサギに関心をもち、ウサギとの触れ合いを楽しみながら世話ができるようになりました。

埋葬に係る実践事例



推進校は、飼育動物が死亡した際、児童に生命の尊さを伝える取組を実施しています。また、学校担当獣医師から、遺体の検案、埋葬場所の準備、埋葬の処理などについて支援を受けています。



新宿区立東戸山小学校

【実践の概要】

○ 飼育する2頭のヤギのうち、9歳を迎えた親ヤギが10月に寿命を迎えました。死が近付くにつれて、餌の量が減ったり、倒れたりすることが増え、その様子に気づき、心配する児童も多くいました。飼育小屋を二つに仕切り、体を休めたり、自分のペースで餌を食べたりできるようにしました。ヤギの最期に当たっては、学校担当獣医師に確認をとりながら、児童にとっても、ヤギにとっても安心して安全な関わりがもてるように心掛けました。



立てなくなったヤギの世話

○ 新型コロナウイルス感染症対策下であることを踏まえ、お別れの集会などは行うことができませんでしたが、児童がメッセージを書いたり、代表児童が放送でお別れの言葉を読んだりしました。埋葬にむかうヤギに1年生が「ありがとう」「またあおうね」と声を掛けて見送りました。いつも当たり前のようだったヤギの死に直面し、生命の大切さを感じていました。



お別れの言葉を述べる代表児童

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 定期的に行われる学校担当獣医師との授業の中でヤギの様子を見ていただき、「死が近いこと」を知らせていただいております、放送で児童に伝えるなど、ヤギの最期に備えた準備をすることができました。また、ヤギの様子を診察していただき、介護について助言をいただくことができました。

体温を保つために毛布を掛けることや、褥瘡（^{しよくそう}床ずれ）を防ぐためにヤギの体の下に藁を敷くと良いことなどを具体的に教えていただき、適切な対応をとることができました。

- ヤギの最期が近いことを知らせると、これまで世話に協力していただいていたボランティアや保護者、卒業生など多くの方が、見舞いや別れの挨拶をしに来校され、本校にとってヤギがとても大切な存在であったことを実感しました。

【児童の反応】

- ヤギの大好きな葉を持ってきたり、水をあげたり、ブラッシングをしたり、掃除をしたりといったように、立てなくなったヤギのために何かできることはないかを考えて行動することができました。
- ヤギの最期を迎えて、継続的に飼育活動を行っている低学年児童や委員会の児童だけでなく、多くの児童がお別れのメッセージを書いたり、ヤギ小屋に訪れたりして、自分の思いを伝えようとしていました。どのメッセージにも、ヤギを大切に思う気持ちや感謝の気持ちが表されていました。



出棺を見送る1年生児童

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★